

ラクサンX

〔安全データシート〕

作成日：2022年10月16日

1 化学品及び会社情報

商品名	ラクサンX
用途	牛の乳頭の殺菌及び消毒（動物用医薬品）
会社名	G E Aオリオンファームテクノロジーズ株式会社
所在地	〒382-8502 長野県 須坂市 大字幸高 246番地
電話番号	026-248-5360（代表）
F A X	026-248-5363
連絡部門	動物薬部

2 危険有害性の要約

最重要危険有害性	特記すべきデータがありません。
特定の危険有害性	本製品は、眼と皮膚にかぶれを起こす可能性があります。

（該当化学品のデータがないため、ヨウ素の情報を記載する。）

GHS 分類

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外

人健康有害性	金属腐食性物質	分類できない
	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷 ・眼刺激性	区分 2A-2B * 注 1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分 1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）	区分 3 （気道刺激性）
	特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）	区分 1（甲状腺）
環境有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分 1
	水生環境慢性有害性	区分 1
* 注 1 分類では区分 2A-2B としているが、本シートでは安全サイドより区分 2A として取り扱う。		

ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：

警告

危険有害性情報：

皮膚刺激

強い眼刺激

アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

長期又は反復ばく露による甲状腺の障害

水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き：

【安全対策】

適切な保護手袋を着用すること。

適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。

粉じん、ヒュームを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

取り扱い後はよく手を洗うこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。

次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

【保管】

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3 組成及び成分情報

本製品は混合物であり、以下の成分を含有します。

化学名又は一般名	含有濃度 (wt/wt)	C A S 番号	官報公示整理番号
ヨウ素	0.5-1.5 %	7753-56-2	該当なし

4 応急措置

目に入った場合：直ちに多量の水道水（流水）で瞼の隅々まで 15 分以上洗眼し、速やかに眼科医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合：吐き出させないこと。すぐに水で口の中を洗浄し、少量の飲料水（子供 4-6 オンス／大人 10-12 オンス）を与える。アルコールは避ける。ただちに医師の手当てを受ける。被災者が意識を失っている、或いはけいれんを起こしている場合は、口から何も与えてはならない。

皮膚に付着した場合：汚染された衣服、靴等を脱がせ、多量の水で 15 分以上洗い流す。症状により医師の診断を受ける。

吸入した場合：呼吸困難或いは痛みがある場合、新鮮な空気のある場所に移す。改善されない場合は医師の診断を受ける。

5 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤	周辺設備に適した消火剤を使用する。
特有の危険有害性	火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム（またはガス）が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法	速やかに容器を安全な場所に移す。 移動不可な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。
---------	---

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。
状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

危険な現場を分離して無関係者及び保護具未着用者の出入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

風上に留まる。

低地から離れる。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項： 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

環境中に放出してはならない。

回収、中和： 漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。

乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

封じ込め及び浄化の方法・機材：

危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策： すべての発火源を速やかに取除く

（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

容器内に水を入れてはいけない。

床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気：	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項：	接触、吸入又は飲み込まないこと。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。
接触回避：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	
技術的対策：	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
混触危険物質：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件：	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 凍結に注意して保管すること。 小児の手の届かないところに保管すること。
容器包装材料：	当包装容器以外で保管はしないこと。

8 ばく露防止及び保護措置

(当該化学品のデータがないため、ヨウ素の情報を記載する)

管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会 (2005 年版)	0.1ppm
ACGIH (2005 年版)	TLV-STEL 0.1ppm (C)
設備対策：	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 粉じんが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 高熱工程で粉じん、ヒューム、ミスト、ガスが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具：	換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。 防毒マスクにはハロゲンガス用吸収缶を使用する。
手の保護具：	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具：	適切な眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
皮膚及び身体の保護具：	適切な顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策：	取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

9 物理的及び化学的性質

形 状	赤褐色の液体
臭 い	ヨウ素臭
p H	5. 0 （現状のまま）
粘 度	データなし
比 重	1. 03 （25℃）
沸 点	データなし

10 安定性及び反応性

安 定 性	通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
反 応 性	通常は反応しないでしょう。
避けるべき条件	凍結する場所での保管は避ける。火気や熱源のそばでの保管は避ける
避けるべき材料	特記すべき情報はありません。
有害な分解生成物	特記すべき情報はありません。

11 有害性情報

（当該化学品のデータがないため、ヨウ素の情報を記載する）

急性毒性

急性毒性：	経口：ラット LD50 値：14000mg/kg 3) に基づき、区分外とした。
経皮：	データなし

- 吸入（蒸気）： データなし
- 吸入（粉じん）： ラット LCLo（1 時間）値：0.8mg/L（4 時間換算値 0.2mg/L）とのデータがあるが、LC50 値についてのデータはなく区分が特定できないことから、データ不足のため分類できないとした。
- 皮膚腐食性・刺激性： 具体的な症例報告はないが、局所作用として皮膚の水ほうを起こすとの記述 4) から、皮膚刺激性があると判断し、区分 2 とした。
- 皮膚刺激
- 眼に対する重篤な損傷
- ・刺激性： 局所作用として結膜炎 4) を起こすとの記述から、眼刺激性であると判断し、区分 2A-2B とした。本シートでは安全サイドより区分 2A として取り扱っている。
強い眼刺激
- 呼吸器感作性又は
- 皮膚感作性： 呼吸器感作性： データなし
- 皮膚感作性： 日本接触皮膚炎学会の皮膚感作性物質にリストアップされており、日本産業衛生学会許容濃度勧告には感作性物質：皮膚第 2 群に、また日本職業・環境アレルギー学会では皮膚感作性物質としてリストアップ 5) されており、さらに別々の接触皮膚炎の症例報告 3) , 6) があることから、区分 1 とした。
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
- 生殖細胞変異原性： in vitro 試験（ほ乳類培養細胞を用いる遺伝子突然変異試験：陰性）のデータしかないため分類できない。
- 発がん性： データなし
- 生殖毒性： データなし
- 特定標的臓器・全身毒性
- （単回ばく露）： ヒトで蒸気や溶液のミストの吸入により気道刺激性が認められるとの記述 3) , 6) から、区分 3（気道刺激性）とした。
呼吸器への刺激のおそれ
- 特定標的臓器・全身毒性
- （反復ばく露）： ヒトで経口摂取により甲状腺の疾患（甲状腺機能低下、機能亢進又は甲状腺炎）を起こすとの記述 7) から、区分 1（甲状腺）とした。

長期又は反復ばく露による甲状腺の障害
吸引性呼吸器有害性：データなし

1 2 環境影響情報

(当該化学品のデータがないため、ヨウ素の情報を記載する)

生態毒性

水生環境急性有害性 甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 LC50 =0.16mg/L 8) から、区分 1 とした。

水生生物に非常に強い毒性

水生環境慢性有害性 急性毒性が区分 1、水中での挙動及び生物蓄積性が不明であるため、区分 1 とした。

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物 法令及び各都道府県の条例等を遵守して処理してください。

汚染容器及び包装 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4 輸送上の注意

運搬に際しては、容器に漏れのないことを確認し、転倒、落下、損傷の無いよう積載し、荷崩れの防止を確実に行ってください。

国際規制 該当しない

国連番号 該当しない

国連品名 該当しない

国連危険有害性クラス 該当しない

副次危険 該当しない

容器等級 該当しない

海洋汚染物質 該当しない

MARPOL73/78 附属書 II 該当しない

及び IBC コードによるばら

積み輸送される液体物質

国内規制	
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	高圧ガス保安法、毒物及び劇物取締法の規定に従う。
特別安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に 行う。重量物を上積みしない。

1 5 適用法令

- ・労働安全衛生法：医薬品のため、適用除外
- ・化学物質管理促進（PRTR）法：該当しない
- ・毒物及び劇物取締法：該当しない
- ・消防法： 該当しない
- ・適用法規情報：薬機法（動物用医薬品）

1 6 その他の情報

本データシートに記載の情報は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、G E A オリオンファームテクノロジーズ株式会社の最善の見地に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。

引用文献 厚生労働省：職場の安全サイト モデル SDS 「ヨウ素」